

彼谷委員から寄せられたコメント

竹の内産業廃棄物処分場の対策について

彼谷

現在の状況では、硫化水素などのガス濃度が低下し、人の健康に影響を与える濃度以下になっている。また、有害物質の流出も起こっていない。従って、廃棄物を他の場所に移す緊急性はないと思われる。しかし、廃棄物の分解はまだ続いており、将来もこのまま推移して行くという確証がないことから、管理を厳重にした処分場にして行くことが現実的であろう。今後検討される対策として、管理型の廃棄物処分場とするための機能を備えることが必要と考える。１）発生ガス対策として、機能性を有する覆土やシートによる被覆等廃棄物層内で発生するガスの放散を防止すると共に、ガスを収集処理する設備を備えることが必要である。２）浸出水の拡散を防ぐために、廃棄物処分場と外部とを遮断するための隔壁を設置することが適当であろう。その場合処分場内の浸出水の処理施設も必要となる。隔壁の範囲は調査結果によって変わるが、最終的には処分場の周囲全てに隔壁を設置することが必要かもしれない。隔壁の設置深度は地下の浸出水位より深くする必要がある。３）発生ガスおよび浸出水対策がとられたとしても、廃棄物の分解は依然として続いていることから、発生ガスおよび浸出水のモニタリングが長期的に必要である。

以上のような対策が採られるなら、周辺住民の健康に影響を与えることはないと思われる。しかし、まだ不安感を払拭できない住民の方もおられると思われるので、今後もケアが必要であろう。